



平成 20 年 9 月 17 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 テ イ ツ ー
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 大 橋 康 宏
 (J A S D A Q ・ コード 7 6 1 0)
 問 合 せ 先 常 務 取 締 役 C F O 片 山 靖 浩
 電 話 番 号 0 3 - 5 4 0 8 - 5 5 3 2

平成 21 年 2 月 期 中 間 (連 結) 業 績 予 想 と の 差 異、中 間 (単 体) 前 期 実 績 と の 差 異
 及 び 通 期 (連 結) 業 績 予 想 の 修 正、通 期 (単 体) 業 績 予 想 に 関 す る お 知 ら せ

平成 21 年 2 月 期 (平成 20 年 3 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日) の連結業績予想について、平成 20 年 4 月 18 日付「平成 20 年 2 月 期 決 算 短 信」に て 発 表 いた した した 連 結 業 績 予 想 を 下 記 の と お り 修 正 いた します。な お、単 体 業 績 に 関 し ま して は 同 「平 成 20 年 2 月 期 決 算 短 信」に お いて は、連 結 業 績 の 予 想 と 個 別 業 績 の 予 想 が 概 ね 差 が ない た め 省 略 した 旨 を 記 載 して お り ま した が、今 般 業 績 予 想 の 中、連 結 業 績 と の 差 が 生 じ た 部 分 等 が ご ざ い ま した の で、前 期 実 績 と の 差 異 と 同 時 に 業 績 予 想 を 下 記 の と お り 発 表 いた します。

記

1. 平成 21 年 2 月 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正

(1) 中 間 期 (平 成 20 年 3 月 1 日～平 成 20 年 8 月 31 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	20,300	580	540	230
今 回 修 正 (B)	19,740	495	460	85
増 減 額 (B-A)	△560	△85	△80	△145
増 減 率	△2.8%	△14.7%	△14.8%	△63.0%

(2) 修 正 理 由

中 間 連 結 売 上 高 に つ き ま して は、原 油 や 原 材 料 高 騰 に 伴 う 生 活 必 需 品 全 般 の 値 上 げ 等 に よ り 消 費 環 境 が 冷 え 込 ん だ 影 響 を、当 社 グ ル ー プ も 主 に 古 本 市 場 事 業 及 び ア イ ・ カ フ ェ 事 業 に 受 け た こ と に よ り、当 初 計 画 を 下 回 る 19,740 百 万 円 (前 回 予 想 比 560 百 万 円 減) と な る 見 込 み で あ り ま す。

中 間 連 結 営 業 利 益 に つ き ま して は、連 結 売 上 高 が 当 初 計 画 を 下 回 っ た こ と に よ り、495 百 万 円 (前 回 予 想 比 85 百 万 円 減) と な る 見 込 み で あ り ま す。中 間 連 結 経 常 利 益 も 同 様、460 百 万 円 (前 回 予 想 比 80 百 万 円 減) と な る 見 込 み で あ り ま す。

中 間 連 結 純 利 益 に つ き ま して は、中 間 連 結 経 常 利 益 の 減 少 に 加 え、古 本 在 庫 廃 棄 に よ る 特 別 損 失 の 183 百 万 円、有 価 証 券 評 価 損 20 百 万 円 等 を 併 せ て、約 205 百 万 円 の 特 別 損 失 の 計 上 を 見 込 ん で お り、85 百 万 円 (前 回 予 想 比 145 百 万 円 減) と な る 見 込 み で あ り ま す。な お、特 別 損 失 の 内 容 に つ き ま して は 本 日 発 表 いた した 「特 別 損 失 の お 知 ら せ」を ご 参 照 くだ さい。

(3) 通期 (平成20年3月1日～平成21年2月28日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	44,000	1,270	1,200	500
今回修正 (B)	42,500	880	810	250
増減額 (B-A)	△1,500	△390	△390	△250
増減率	△3.4%	△30.7%	△32.5%	△50.0%

(4) 修正理由

連結売上高につきましては、古本市場事業の新店出店時期が建築確認申請の審査基準の厳格化による建物の竣工時期の遅れなどの理由で当初計画より後半にずれ込んだことや、原油や原材料高騰に伴う生活必需品全般の値上げ等により消費環境が冷え込んだ影響による直近の消費環境のトレンドを勘案した売上計画の見直し、時間制課金型ビジネス向けの店舗運営システム販売を主力事業としている連結子会社インターピア株式会社の直近の業界動向を勘案した新POSの売上に関する計画の見直し、アイ・カフェFC出店減少見込みを反映した結果、42,500百万円 (前回予想比1,500百万円減) となる見込みであります。

連結営業利益につきましては、連結売上高の減少に加え、顧客満足度の向上や業務効率化を目標に基幹系システム及び店舗システムにおいて、次世代システム導入を前倒しで検討及び実行が必要と判断するなどシステム戦略見直しによる先行投資の発生等により、880百万円 (前回予想比390百万円減) となる見込みであります。連結経常利益も同様、810百万円 (前回予想比390百万円減) となる見込みであります。

連結当期純利益につきましては、連結経常利益の減少や中間期における特別損失の発生により、250百万円 (前回予想比250百万円減) となる見込みであります。

(5) ご参考: 前期実績 (平成19年3月1日～平成20年2月29日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期 (3/1～8/31)	21,747	760	753	451
通期 (3/1～2/29)	45,568	1,448	1,413	634

2. 平成21年2月期単体業績予想

(1) 中間期 (平成20年3月1日～平成20年8月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前年同期実績 (A)	20,192	856	862	374
今回予想 (B)	17,970	510	490	150
増減額 (B-A)	△2,222	△346	△372	△224
増減率	△11.0%	△40.4%	△43.2%	△59.9%

(2) 差異の理由

中間単体売上高につきましては、前年同期の売上好調の反動減に加え、国内消費環境の変化により売上高が当初計画を下回ったため、17,970百万円 (前年同期実績比2,222百万円減) となる見込みであります。

中間単体営業利益につきましては、中間単体売上高の減少により、510百万円 (前年同期実績比346百万円減) となる見込みであります。中間単体経常利益も同様、490百万円 (前年同期実績比372百万円減) となる見込みであります。

中間単体純利益につきましては、中間単体経常利益の減少に加え、古本在庫廃棄による特別損失の183百万円、有価証券評価損20百万円等を併せて、約205百万円の特別損失の計上を見込んでおり、150百万円(前年同期実績比224百万円減)となる見込みであります。なお、特別損失の内容につきましては本日発表いたしました「特別損失のお知らせ」をご参照ください。

(3) 通期(平成20年3月1日～平成21年2月28日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前期実績(A)	42,338	1,629	1,631	188
今回予想(B)	39,400	970	930	300
増減額(B-A)	△2,938	△659	△701	111
増減率	△6.9%	△40.5%	△43.0%	59.5%

(4) 差異の理由

単体売上高につきましては、前期の売上好調の反動減により、39,400百万円(前期実績比2,938百万円減)となる見込みであります。

単体営業利益につきましては、単体売上高の減少に加え、システム戦略見直しによる先行投資の発生等により、970百万円(前期実績比659百万円減)となる見込みであります。単体経常利益も同様、930百万円(前期実績比701百万円減)となる見込みであります。

当期純利益につきましては、経常利益の減少及び中間期における特別損失約205百万円の発生はあるものの、前期に計上した連結子会社の株式評価損による特別損失719百万円等があったため、300百万円(前年実績比111百万円増)となる見込みであります。

3. 平成21年2月期配当予想について

配当予想につきましては、平成20年4月18日付「平成21年2月期決算短信」にて発表いたしました1株当たり260円(中間配当130円)で変更はありません。

※ 上記の予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。実際の実績等は、業況の変化等により上記予測と異なる場合があります。

以 上